

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども生活館おひさま		
○保護者評価実施期間	令和7年 11月1日		～ 令和7年11月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12人	(回答者数) 12人
○従業者評価実施期間	令和7年11月17日		～ 令和7年11月18日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月16日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	支援時間を長く確保し(9時から13時)、運動、感覚面へアプローチする活動と合わせて、食事、排泄、衣服の着脱、持参の荷物や道具の整理整頓など日常生活動作の発達への働きかけも十分に時間をかけて行うことができます。	日常生活動作についても保護者や園の先生方と細やかに共有し、お子様の発達のペースに合わせた働きかけや、身体状況に合わせた方法を獲得できるよう取り組みを行っています。年齢にとらわれず、お子様の発達の状況を捉えながら、ゆっくりと丁寧に発達を促しています。	支援時間が長いからこそ、1日の中でたくさん小さな成功体験を積み重ねることができます。「できた」「うれしい」「楽しい」を十分に実感してもらえるような支援を今後も継続していきたいと思ひます。
2	園の先生方と普段からの連携だけではなく、おひさまに来所していただき懇談する時間を設けています。	来所していただくことで、どのような環境で発達支援を受け、おひさまの活動が、お子様の発達のどの部分へつながっているかイメージをもていただきやすいように取り組んでいます。	園のみなさまのご理解に感謝しながら、今後も、お子様の情報共有と発達支援について関心を持っていただく場として、来所して懇談をする機会を設けていきたいと思ひます。
3	子育てを家族ぐるみで感じ取れる行事設定をしています。	夏野菜の収穫を祝い親子でクッキング・おひさまカフェ・こどもの育ちを参観ウィーク・親子で避難訓練・オヒサマルシェ・法人秋祭り(舞台発表)・おもつき会・交通安全教室・おはなし会など、ご家族ぐるみで一緒にあそび・学び・経験できる機会をできるだけ多く設定しています。共通の思いを共感することで、こどもの気づきやがんばりや挑戦したい気持ちを知り、子育てを通し親子・家族・職員が共に育っていける関係づくりを行っています。	保護者様の勉強会について、ペアレントプログラム(行動分析と認知行動療法)や参観などを通して、こどもの育ちについてお伝えしていますが、座学(発達について学ぶ)の機会を増やせたらと思ひます。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	子育て中でお子様の発達について漠然とした困りや不安を抱えていらっしゃる地域の保護者と交流の場を設けていきたい。	園を利用されているお子様については必要に応じて先生方と連携を図り、巡回心理士の方へお繋ぎできるよう話をさせて頂いております。	園を利用していないお子様については、地域の児童民生委員の皆様や子育てサロン、さらには母子保健課、南部保健センターなどと連携し、地域の子育て支援を担っていくことができるようさらに取り組みます。

公表

## 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 子ども生活館おひさま

公表日 令和8年2月20日

利用児童数 令和7年 11月30日 13名

回収数 12名

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	11	1	0	0	夏休みや冬休みなど時間帯によって放デイと一緒にのびのび活動できるようなあさを感じる。	設置基準に沿ったスペースを確保しております。その日の活動に応じて庭や公園、公共施設なども活用し、お子様がのびのび活動できるように支援しています。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	11	0	0	1	送迎などが重なるかと足りているのか…と思う時はある。	ご意見ありがとうございます。送迎の際も事業所には、基準に沿った職員が待機し、お子様が安全安心して過ごせるようにしております。児童発達支援管理責任者、保育士、児童発達指導員などを配置し、定期的に理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、公認心理士との連携も図り、多角的な視点で育ちをサポートできるようにしております。
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	11	0	0	1		視覚的な配慮や活動の区切りを意識した環境設定を行っています。今後も児童が見通しを持って安心して過ごせるよう改善を重ねます。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	12	0	0	0		1日に数回、清掃や消毒、換気を行っています。湿度と温度もチェックすることで快適に過ごせることができるようになっています。引き続き、衛生管理を継続し、快適に過ごせる環境維持に努めます。
適切な 支援の 提供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	12	0	0	0		ご本人や保護者、各関係機関とのカンファレンスや発達検査の結果などを基に客観的に伸ばしたい力を分析しています。また、e-ラーニングを活用した月に1度以上の職員研修や、強度行動障害者研修を受けるなど、日々専門性を磨いております。今後も一層のスキルアップに励みます。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	12	0	0	0		法人理念、事業所理念を基にガイドラインに沿って支援プログラムを立て、実施しています。支援計画と実際の支援内容にズレが生じないように、職員間での共有も密に行っています。
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	12	0	0	0		児童発達支援管理者を中心にご本人や保護者、各関係機関からのお話を伺い、伸ばしたい力や課題について共通理解を図っております。アセスメントやカンファレンスを行い、計画を作成しております。伸ばしたい力を考慮し、必要に応じて計画の見直しを随時行っております。
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	12	0	0	0		ご家族や関係機関の皆様と支援内容が共有しやすいよう、目標と活動の相関性を分かりやすく記載するよう心がけています。今後もお子様の成長に応じた適切な目標設定に努めます。
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	12	0	0	0		子どもたちに応じた個別支援計画を基に、活動計画を作成し、達成感や満足感に繋がれるよう配慮しています。職員間で振り返りを行い、支援の質や方向性を確認しています。引き続き計画と実践の一貫性を大切にしていきます。

	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	12	0	0	0	プログラムは、見通しをもち、安心して過ごすことができるよう、繰り返し行うものもあります。子どもたちの様子を見ながら、新しいことへ取り組むことへの意欲を引き出せるように少しずつ変化を加えています。施設外活動や食育の活動にも力を入れ、楽しみながら成長できる支援を行います。
	11	保育所や認定子ども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他の子どもと活動する機会がありますか。	12	0	0	0	オヒサマルシェや防災訓練などは、地域の皆様にも参加していただける行事となっています。
保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	12	0	0	0	契約時の説明とともに書面でも確認できるようにしています。運営規程については、事業所の入り口に掲示し閲覧用も備えています。支援プログラムについてはHPにて公表し、いつでも確認できるようになっております。支援内容については随時と定期、連絡帳や家族会やお便り、SNSなどでお伝えさせて頂いております。利用者負担等については、契約時、変更時に説明させていただいております。
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	12	0	0	0	個別支援計画には、ねらいや支援内容も細かく記載しています。保護者の方と内容を確認しながら説明を行い、同意をいただいております。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	12	0	0	0	年に1回、1クール(全6回)のペアレントプログラムを5月~7月の隔週で実施しています。講師として対応する職員は講師としてのフォローアップ研修に参加し技術の向上に努めています。
	15	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	12	0	0	0	個別面談や連絡帳、お電話等活用させていただきながら、お子様の状況について情報交換を行っています。おたよりやSNSでも日々の様子を共有させていただいております。保護者との情報共有を大切に、信頼関係の構築に努めています。今後も丁寧なやり取りを継続します。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	12	0	0	0	連絡帳や電話等、また定期的に面談を行っています。困りごとや悩みに対して随時相談をお受けし、相談しやすい雰囲気づくりを行っています。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	12	0	0	0	保護者様が感じる喜びや不安・疑問に対して、職員に話しやすい雰囲気を作り、安心して相談できるよう今後も取り組んで参ります。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	11	0	0	1	「就学に関する研修会」「おひさま運動会」「おひさまカフェ」「おひさまマルシェ」「ペアレントプログラム」を開催いたしました。保護者やきょうだい児、地域の方々が交流する機会をつくっています。
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	12	0	0	0	相談窓口や解決責任者を設置するなど体制を整えており、お知らせをしておりますが、どの職員にも相談しやすいよう心掛けております。いただいた相談や申し入れには真摯に向き合い、必要な対応を行っています。
20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	12	0	0	0	分かりやすい言葉や伝え方を意識し、丁寧な対応を心がけています。お電話、連絡帳、面談などを通し共通理解に努めて参ります。状況により柔軟に対応できるよう、今後も円滑な意思疎通に努めます。	

非常時等の対応	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	12	0	0	0	<p>おたよりを毎月発行し、活動概要、行事予定、前月の活動の様子をお知らせしております。活動の様子、行事予定のお知らせはSNSも活用して発信しています。また自己評価票の結果はホームページに記載しております。</p>
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	12	0	0	0	<p>個人情報に記載された書類は鍵保管しています。おたよりやSNS掲載は同意を受けた範囲内で行っております。個人情報の管理について、職員全体で意識を共有し、マニュアルに基づき、適切な取り扱いを徹底しています。今後も個人情報の取り扱いに十分注意して参ります。</p>
	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	12	0	0	0	<p>家族会の際に必ずお伝えするようにしています。またマニュアルは事業所内いつでも閲覧できるようにしています。マニュアルに加え緊急時や感染症拡大時にも状況に応じて支援ができるよう業務継続計画（BCP）も策定しております。引き続き、マニュアルに沿った取り組みを行ってまいります。</p>
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	12	0	0	0	<p>年間計画に基づき、年1回の消防立ち合い合同訓練（保護者、地域の方の参加）と各月に自主訓練を行っています。火災、地震、風水害、防犯など状況の設定を行い、どのような状況にも対応できるよう訓練を重ねています。また、事業継続計画（BCP）を策定し、どのような状況でも、できる限り支援を継続していくことができるよう努めています。今後も継続して安全意識を高めます。</p>
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	12	0	0	0	<p>安全計画に基づく取り組みについて、家族会にて周知しており、さらに通報避難訓練や交通安全教室に保護者のみなさまにも参加していただき、子どもたちの安全を全体で整えていくことができるよう取り組んでおります。</p>
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	12	0	0	0	<p>事故に至らない擦り傷なども、保護者様や各関係機関に連絡を行い、ご説明しております。</p> <p>医療機関の受診が必要な怪我等に対しては速やかに保護者、協力機関及びかかりつけ医への連絡を行い、保護者様への迅速な連絡、また行政への報告を行う体制になっております。</p> <p>万一事故が発生した際には、迅速な対応を行い、保護者・関係各所への連絡を行います。再発防止策の検討もします。</p>
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	12	0	0	0	<p>お子様が安心して通所できるように、環境を整え、お子様の力を伸ばしていくことができるよう努めて参ります。</p>
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	12	0	0	0	<p>見通しや期待感をもち、安心して経験を重ねられるように配慮していきます。期待感をもち、楽しい経験をする中で「できた！」を重ねられるよう取り組みを続けていきたいと思っております。経験を自信に繋げ、子どもたちがいきいきと笑顔で過ごすことができるよう努めて参ります。</p>
	29	事業所の支援に満足していますか。	12	0	0	0	<p>普段から活動へのご理解とご協力、ありがとうございます。地域の一員として、子どもたちの成長を喜び合えることを嬉しく思います。今回の評価結果を今後の運営や支援向上に活かして参ります。</p>

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		こども生活館おひさま			公表日		令和8年2月20日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		指定基準に沿い、定員とスペースは適切に運営を行っています。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		適切に配置されています。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		視覚的な配慮や活動の区切りを意識した環境設定を行っています。今後も必要に応じて児童が見通しを持って安心して過ごせるよう改善を重ねます。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		1日に数回、清掃や消毒、換気を行っています。温度と湿度もチェックすることで快適に過ごすことができるようにしています。			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		必要に応じて個別での活動やクールダウンできる場所を提供しています。児童の状態に応じた空間活用を行っており、安心できる場の確保を継続して行っています。			
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		業務改善を図るために、職員会議、事業企画会議等を定期的に実施しています。職員会議は全職員が参加し、目標に向けての話をしています。目標に対して実際の分析と次への改善等の話し合いを行い、抽出された事柄について、法人で行う事業企画会議で管理者が提案しサービスの質の向上に取り組んでいます。			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		毎年一回ガイドラインに基づくアンケートを実施しています。保護者のご意見を把握し、事業計画に反映させて頂き、改善に取り組んでいます。随時ご意見を頂けるようお願いしています。			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		事業所内でミーティングを毎日行い、その都度意見を出し合い、業務改善に繋がっています。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	第三者評価の実施には至っていません。			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		年間計画に基づいて外部研修、法人研修、各事業所での研修を行っています。外部研修については随時復命研修を行い、全職員がスキルアップできるよう取り組んでおります。			
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		ガイドラインに沿って支援プログラムを作成し、動画と書面にてホームページに公表しています。			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		ご本人、保護者からのニーズを把握し、アセスメント、カンファレンスを行い個々の今と将来を見据えた計画を作成しています。作業療法士、理学療法士、言語聴覚士、臨床心理士からの情報も参考にしています。			

適切な支援の提供

13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		保育士、児童指導員などこどもの支援に関わる多職種の職員全員が、カンファレンスに参加し、それぞれの視点を共有し総合的に検討しています。こどもの最善の利益を考慮し児童発達支援計画を作成しています。	
14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		児童発達支援計画を職員間で共有し、年間活動計画や月間活動計画に反映し、計画に沿った日々の支援を実施しています。変更点があれば速やかに共有しています。	
15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		標準化したツールを使用しています。また、状況に応じて個々に合ったツールをさらに取り入れインフォーマルなアセスメントと組み合わせ、お客様の発達状況を把握できるように取り組んでおります。	
16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		児童発達支援管理責任者や職員と共にガイドラインに沿ったねらいや支援内容を設定しています。5領域を踏まえたうえで具体的な支援内容を設定し、ご本人、ご家族のみなさまに分かりやすく伝えることができるようにしています。具体的な目標を定め、実践可能な内容となるよう工夫しています。	
17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		ガイドライン、年間事業計画を踏まえ、チームで立案し、集団活動の中でも個別支援計画の支援内容を実施するための工夫をしています。	
18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		見通しを持ち、安心して過ごすことができるよう、繰り返し行うプログラムもあります。こどもたちの様子を見ながら、新しいことへ取り組むことへの意欲を感じられるように少しずつ変化を加えています。発達に応じて感覚的な活動、集団で行う活動など発達に合わせたプログラムを用意しています。季節の行事なども取り入れ、柔軟なプログラム構成を心がけています。	
19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		こどもたちの発達や年齢、状況に応じて個別活動、集団活動をバランスよく設定しています。状況に応じて支援形態を調整しています。	
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		こどもたちの日頃の活動の様子、保護者からの連絡や、日頃の気づきの共有を行い、職員の動きを繋げながら、支援開始前にミーティングを行っています。役割確認と連携体制を整えて支援を行っています。	
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援終了後、支援内容やこどもの様子など、次へ繋げるために振り返りを行い気付きや支援の方法を職員間で共有しています。保護者との共通認識や個別支援計画にも繋げられるようにしています。	
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		ねらいや職員のアプローチに対するこどもたちの反応、どのような配慮があれば達成感を感じることができるかなどの改善点等、次の活動や個別支援計画に繋がる記録を心掛けています。記録をもとに支援効果を検証し、継続的な改善に活用しています。	
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		保護者や関係機関と連携を行い、定期的にカンファレンスやモニタリングを行っております。達成状況や課題を整理し、必要に応じて個別支援計画の見直しを行っています。	

関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		管理者や、児童発達支援管理責任者が参加しています。会議の内容は支援に当たり事業所内の職員と共有しています。今後も連携を円滑に進めていきます。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		地域の中で、こどもたちと保護者が安心して生活していくことができるよう地域の保育、医療、園など関係機関との連携を密に取り支援体制を整えていきます。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		園や併行通所先と連携を図りながら、こどもたちが力を発揮できるよう努めています。本人やご家族が安心感を持って移行できるよう、縦と横の支援を意識しています。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		小学校とも連携し、環境が変わってもこどもたちが力を発揮することができるよう移行支援シートなども使用し、情報共有を行っています。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○		児童発達支援センターが主催する連絡会に参加し、行政からの情報や、地域の情報等を取得しています。また、研修を通して地域の事業所の皆様と共に研鑽し、地域全体の支援力の向上につながる関係づくりを継続しています。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		オヒサマルシェや地域開放型の行事を通して地域と交流ができるよう取り組んでいます。地域のこどもたちも来てくださり、盛況でした。社会性や集団適応力の向上を目的として取り組んでいます。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		保護者様がお迎えに来られた時や面談や連絡帳、お電話などでおひさままでの様子をお伝えし、またご自宅での様子もお伺いしています。ご家族と一緒にお子様の成長を捉えながら、これから伸ばしていきたい力を共有しています。電話や面談などを通して日頃のこどもの状況を共通理解ができるようにしています。家庭との共通理解を基盤に支援を進めています。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		年に1クール(全6回)のペアレントプログラム5月～7の隔週で実施しています。講師として対応する職員は講師としてのフォローアップ研修に参加し、技術の向上に努めています。		
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時や、内容の変更時にご説明しています。運営規程、支援プログラム、活動計画、利用者負担について事業所内にていつでも閲覧できるように準備しています。職員もいつでも丁寧な説明が行うことができるようにしております。		

36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		面談を行い、ご本人、保護者様のご意向を確認する機会を設けています。また、お子様ご本人の年齢や発達段階に応じた方法での意向の確認も丁寧に行うことができるよう、個々でゆっくりお話できる時間も設けています。	
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		保護者に説明を行い同意を頂いたうえで、支援をしています。	
38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		随時対応しています。面談や送迎時、電話や連絡帳などで日ごろの様子を伺い、悩みごとや困りごと等、スタッフ間でも共有し、助言を行っています。必要に応じて園や関係機関との連携も図り、心穏やかに子育てができるようなサポートを心掛けています。	
39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		今年度も『おひさまカフェ』『おひさま運動会』などを開催することができ、保護者同士が、日頃感じていることなどを職員も交えて語り合う場を作っています。どの行事も、きょうだいの皆様も楽しむことができるように工夫しております。皆様に喜んでいただき、次年度への励みにもなっています。3月の『進級・卒園を祝う会』ではご家族の皆様と一緒に成長を喜び合えることを楽しみにしています。	
40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情について相談苦情受付担当者・解決責任者・第三者委員等を任命し体制は整備してあります。保護者さまへは契約時や家族会の際に周知しています。心情理解、事実確認、解決策の提示をし、迅速に対応していくことを心掛けて取り組みを行っています。	
41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		毎月おたよりを発行しています。また個人情報に配慮したうえでSNSでも活動の様子を発信し子どもたちの様子を見て感じていただけるように取り組んでいます。	
42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		契約時や家族会の際にお伝えさせていただいております。法人の個人情報保護規定を基に個人情報の管理には十分に配慮しております。	
43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		全員が分かりやすいような示し方を心掛けております。状況に応じて個々に合わせた細やかな視覚支援などができるようにしています。	
44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		事業所主催の『オヒサマルシェ』は地域の皆様にも参加して頂いております。また、地域の保育園、幼稚園の先生方をお招きし、子どもたちの情報を共有したり、子ども生活館おひさまの取り組みをお伝えする機会も設けております。また、避難訓練の際には近隣の皆様にも参加していただき、緊急時にはお互い協力を得られるような関係づくりを心掛けています。	
45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		家族会の際に必ずお伝えするようにしています。またマニュアルは事業所内にいつでも閲覧できるようにしています。防災訓練や交通安全教室等には、ご家族で参加していただいております。定期的に訓練を実施することで、職員の対応力の向上を図っています。	

非常時等の対応	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		年間計画に基づき、年2回の立ち合い訓練と各月に自主訓練を行っています。様々な状況の設定で、どのような状況にも対応できるよう訓練を重ねています。またマニュアルに加え緊急時や感染症拡大時にも状況に応じて支援ができるよう業務継続計画（BCP）も策定しております。どのような状況でも、できる限り支援を継続していくことができるよう努めています。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		利用開始時に確認し、服薬、予防接種などはその都度保護者に確認しています。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		アレルギーの有無を利用開始時に確認し、アレルギーがある場合は指示書をもらい対応しています。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		家族会にて、ご家族も皆様にも周知しております安全計画に基づいて研修、救命講習、訓練を行っています。また外出時、プール活動時などチェック表を用いて安全に努めています。今後も定期的に見直しを図りながら、お子様の安全を守り、より良い支援が実施できるように取り組んで参ります。取り組みの一環で実施しております通報避難訓練や交通安全訓練へのご参加していただき感謝申し上げます。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		安全計画に基づく取り組みについて、家族会にて周知しています。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		その都度報告書を作成し、共有し検証することで原因分析を行い、再発の防止に努めています。安全意識の向上に努めています。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止委員会を設置し、体制整備を行っています。毎月虐待防止研修を実施し、全職員で支援の在り方を共有し、適切な支援が行えるようにしています。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		身体拘束廃止、虐待防止、権利擁護は法人全体の研修を十分に行い、未然防止の共通認識を図っています。身体拘束に相当する行為は非代替性で生命に関わる場合など、緊急やむを得ない場合以外で行うことは想定していませんが、現在までに事例はありません。仮に拘束が必要と思われる場合は事前に保護者に説明し、了解を得たうえで行うこととなります。現在は児童発達支援計画への記載を必要とする利用児がいないため記載に至っていません。		